

【活用にあって】

差別や偏見のない社会の実現に関する内容です。

コロナ禍。妻、そして自分自身の感染、病との戦い。
店の休業。店への匿名電話。つらいことばかりです。

そんな村田さんを励ます人がいます。友人やお客さんです。どんな思いで励ましたのでしょうか。弱い立場の人を思いやる優しさ、強さについて考えます。

村田さんは、「多くの人に感謝したい」と言います。心の支えになったのは、友人やお客さんからの励ましのメール、電話です。同じ電話でも、心ない匿名電話とは天と地ほどの差があります。

最後に、家族や友達の発表を聞いて、自分の考えを今一度振り返ります。書くことで自分の考えを明確にし、これからの生き方について考えを深める学習にしたいと思います。

参考として、2020年9月3日付尾張版の記事を次ページに掲載します。

唐突な告白に一瞬、戸惑った。

「実はうちの息子がコロナにかかっちゃってね」。取材先の男性と、電話で話していた際、突然、打ち明けられた。男性は息子と同じに居たが、幸いにも感染はしていなかったという。

後日、男性の元を訪ねた。男性は隠し立てなく、息子が感染し、自らが濃厚接触者であることを、知り合いに明かしているという。

「差別が怖くないですか」と聞いた。男性は「相手に弱い人の立場を理解してもらいたい。隠し続



弱い立場

けて、こそこそ言われるのが一番嫌だからさ」と語った。

感染者や濃厚接触者が、差別的な扱いを受けているという話をよく聞く。今や、病状よりも、社会的に孤立するデメリットの方が大きい印象すら受ける。

男性のように、弱みをオープンにできる、強い心を持つ人間はそう多くはないだろう。ただ、「弱い立場の人を思いやる」ことは誰だってできる。当たり前前の道徳をいま一度、心掛けたい。

(深世古峻)